

## 『影、高く買います』

あんな

ある朝、新聞を読んでいると、私は広告にこんな見出しをみつけた。

「影、高く買います」

なんだ、これは？ 不思議な気持ちで文字を更に追う。

「影、高く買います。お気軽にご連絡下さい。

『幸せの影』研究所 TEL \*\*\*」

影……。考え始めたが、時計の音に思考が遮られる。

「もう、こんな時間だ。会社に遅刻してしま  
う」

バサッと新聞を放り投げて、私は急いで家を出た。外に出ると朝日がまぶしい。歩きだした自分の足元を見ると、長い黒い影が付いてくる。この影のこと？

困ったことに仕事でも、「影、高く買います」

が私の頭を離れない。こんなに気になるのなら電話してみるか。ただの悪戯なら、名乗らずに切れば良いのだから。

電話はすぐに通じた。

「『幸せの影』研究所です。はい、確かにこちらで影を高く買います。是非一度、お越しください。話だけでも聞いて頂いて、ご納得出来ないようでしたら、結構ですよ。すべてあなた次第なのです」

誰が、こんな怪しい電話で行く人がいるのだろうか？ 私なら絶対に行かないが……。

研究所は、家から意外と近くにあった。

私が思っていたよりも、まともなビルである。見るだけ。そう思つて前を歩いてみた。

「お待ちしておりました」

中から白衣の女性がすつと現れた。

「なぜ、私だとわかったのですか？」

ふふふ、と女性がほほ笑んだ。

「あなたが魅力的な影をお持ちだからですよ。この研究所では皆様の影を購入させて頂いております。何のために？ 皆様、そう尋ねられますね。そうですね、研究の為に申しませうか。痛みは何もありません。あなたの生活

にも何ら影響はありません。よく考えてみてください。今まで影を意識したことがありませんか？ 影が無くても何の不便も感じないでしょう？ その影を当方では、あなたの言い値で買い取ろうと申し上げているのです」

「言い値ですか。馬鹿馬鹿しい。例えば、例えばですよ……。私が一億円と言えば、貴方は買い取るのですか？」

ほほほほ。女性が笑った。

「結構ですよ。すぐにお支払い致します」

一億。このお金の使い道をついつい考えってしまう私がいる。影は何か、いままで役に立ったか？ お金は役に立つぞ……。どうする？

こうして私は、自分の影がない人間になった。

何か変わったことはないかって？ いや、全然なんの不便もなく暮らしているよ。

むしろ今までよりもずつと楽なんだ。ただ主（あるじ）の真似をして動くだけ。慣れるまで戸惑ったこともあったけど、今は何も考えずについていくだけだよ。

こんにちは。「幸せの影」研究所です。人間の影は、有効に活用させて頂いております。……というより、人間よりもずつと、有意義に生きていますよ。人間はどうなったかですって？ 私達は、人間から影を購入し、逆転させました。つまり、地上に立つ人間こそが、今は私達の影なのです。

朝、他人の影をご覧になったことがありますか？ 地面の影が、人間より先に動いていることに気がつきませんか？ それは影が主体となって生き生きと行動し、人間は私達の従者となって何も考えず、そのまま足元の影の動きを追随しているだけなのですよ……。

「影、高く買います」

次の日、新聞にまた、こんな見出しの広告が躍っていた……。